

令和6年度

やまゆり

読書感想文コンクール・読書感想画コンクール

作品集



福島町教育委員会

読書感想文入賞作品 目次

◆小学校低学年の部◆

最優秀賞	福島小学校二年	對馬 偉央	6
		たすけあい	6
優秀賞	福島小学校二年	小熊 瑛菜	6
		クラゲとさる	6
	福島小学校二年	岡 咲有美	7
		こまってる人をたすける。	7
奨励賞	福島小学校二年	阿部 結華	7
		りきし	7
	福島小学校二年	村田 澤 柊	8
		たすけあい	8
	福島小学校二年	福井 陽 依	8
		海のたのしさ	8
最優秀賞	福島小学校四年	関 一 花	9
		ソメヤくとカオルちゃんが	9
		なか間になるシーン	9
優秀賞	福島小学校四年	管 藤 泉 那	10
		友だちが見つかった子犬	10
	福島小学校三年	管 藤 椰 将	11
		死んでも心はのこる	11

◆小学校高学年の部◆

奨励賞	福島小学校三年	北村 明 彩	12
		みんなでおいしいチョコ食べよう。	12
	福島小学校三年	齋藤 春 翔	13
		休戦してサッカーしよう	13
	福島小学校四年	渡 邊 愛 梨	14
		ふしぎな石	14
優秀賞	福島小学校六年	角 谷 稀 唯	15
		お金では買えない大切なもの	15
	福島小学校六年	大野 莉 奈	16
		反応することを大切に	16
奨励賞	福島小学校五年	馬 躰 希 咲	17
		仲良くしたいのに	17
	福島小学校六年	岡 洸 樹	18
		失敗をしても前を向いて	18
	福島小学校六年	田 中 紗 彩	19
		勇気を出して	19

◆中学生の部◆

優秀賞	福島中学校一年	山 舘 夢 花	この父さんの素晴らしさ	20
奨励賞	福島中学校一年	吉 澤 鈴 音	すこしの勇気で	21
〃	福島中学校二年	吉 田 陽 向	言霊く野球魂を熱くさせる言葉く	22
〃	福島中学校二年	中 塚 心 優	戦争の苦難	23

読書感想文コンクール作品応募状況

読書感想文を応募してくれた皆さん	24
読書感想文を応募してくれた皆さん	25

読書感想画入賞作品

◆小学校低学年の部◆

最優秀賞	吉岡小学校一年	新 山 圭 瞬	アザラシがシャチに	28
優秀賞	福島小学校一年	坂 口 碧 斗	たべられそうになったようす	28
〃	福島小学校二年	小 熊 瑛 菜	ありのすにたまごをうむちよう	28
〃	福島小学校二年	小 熊 瑛 菜	クラゲはかなしい	29

◆小学校中学年の部◆

奨励賞	福島小学校二年	齋 藤 勇 翔	やさしいおぼけ	29
〃	福島小学校一年	湯 浅 太 鳳	おふろで50かぞえるところ	30
〃	福島小学校二年	佐 藤 晴 臣	すききらいをなくそう	30

最優秀賞

福島小学校四年 上 嶋 朋 花

優秀賞

福島小学校三年 村 上 碧 人

吉岡小学校四年 水 澤 千 愛

福島小学校三年 阿 部 姫 華

福島小学校三年 齋 藤 春 翔

福島小学校四年 関 一 花

福島小学校三年 阿 部 姫 華

福島小学校三年 齋 藤 春 翔

福島小学校四年 関 一 花

福島小学校三年 阿 部 姫 華

福島小学校三年 齋 藤 春 翔

福島小学校四年 関 一 花

福島小学校三年 阿 部 姫 華

福島小学校三年 齋 藤 春 翔

福島小学校四年 関 一 花

福島小学校三年 阿 部 姫 華

福島小学校三年 齋 藤 春 翔

福島小学校四年 関 一 花

福島小学校三年 阿 部 姫 華

福島小学校三年 齋 藤 春 翔

◆小学校高学年の部◆

最優秀賞	福島小学校五年	馬 躰 希 咲	心のおとどけ物	34
優秀賞	福島小学校五年	吉 澤 亜 純	世界一のけいさつ犬	34
〃	福島小学校六年	村 田 稀 生	友達のために	35
奨励賞	吉岡小学校五年	新 山 芽 依	図書室のできごと	35
〃	福島小学校五年	吉 田 陽 葵	信用してくれたんだね。	36
〃	福島小学校六年	村 田 絢 音	友達の大切さ	36

◆中学生の部◆

最優秀賞	福島中学校二年	角 谷 琉 唯	うそをついたけれども	37
優秀賞	福島中学校二年	岡 歩 那 美	夢をかなえる空	37
〃	福島中学校三年	吉 澤 舞 雪	僕が声を描く	38
奨励賞	福島中学校三年	福 田 瑞 姫	犬が居場所をみつけてくれた	38
読書感想画コンクール作品応募状況	39

読書感想画を応募してくれた皆さん
.....
40



讀
書
感
想
文

入
賞
作
品

小学校低学年の部

最優秀賞

たすけあい



図書名 としよかんねずみ2

つしま

福島小学校 二年

對馬

いお

偉央

ぼくが、この本をえらんだりゆうはひようしを見て、ねずみがえんぴつをもっているのがおもしろそうだったからです。

ぼくがこの本を読んで、一ばん心にのこった場めんは、トムがサムのみみつをだれにも言わなかった場めんです。サムは図書室でかくれて本を書いていきます。ほかのみんなにはサムが人間だと思われています。ところがサムはじつはねずみでした。ねずみだということはだれにもきづかれなくなかったです。そのサムのひみつを知ったトムは、サムのみみつをだれにも言いませんでした。

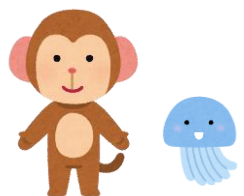
ぼくはこの場めんを読んで友だちを大切にするとムがとてもやさしい人だと思いました。

ひみつを言われなかったサムがうれしそうなどころを見て、思いやりの大切さがわかりました。

もしぼくもトムのように、友だちのひみつを知ってしまったら、トムと同じように友だちのひみつをまもって、友だちを大切にしようと思えました。思いやりの心をもって、これからも友だちとなかよくしようと思えました。

優秀賞

クラゲとさる



図書名 クラゲのおつかい

おぐま

福島小学校 二年

小熊

えいな

瑛菜

わたしは、この本のひよう紙をはじめ見た時、とても気になるものがありました。それは、クラゲの上にさるがのっている絵です。

なので、さるがクラゲの上ののっているりゆうが知りたくて、この本をえらびました。

この本を読んで、わたしが一ばん心にのこっているところは、さるの顔が、赤だったのに青になった場めんです。どうして、顔が赤から青くなったかというと、さるは自分のいきぎもをクラゲにとられると思ったからです。

この場めんを読んでわたしは、顔の色がかわったので、ちょっとわらってしまいうくらい、おもしろかったです。でも、わたしも、こわいことがあったら体が、ふるえて顔が青くなると思いました。

もしもわたしが、クラゲだったら、さるの顔を見てわらっちゃいそうです。なぜかと言うと、さるの毛の色がちゃいので、青くなった顔の色にあわないからです。でも、そのあとさるにだまされてしまったら、わたしは、しっばいしたなあと、かんじてしまうと思います。

優秀賞

こまってる人をたすける。

図書名 100円たんけん

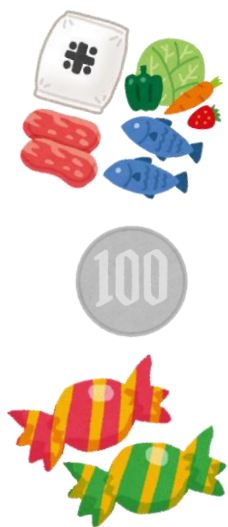
福島小学校 二年 岡 咲有美

わたしは、ブックフェスティバルで、「100円たんけん」という本を見つけて、おもしろそうだったので、かりてきました。わたしは、おかいものが大好きなので、この本にとてもきょうみをもちました。

わたしがこの本を読んで一ばんこころにのこったのは、ぶつぶつこころの話のばめんです。むかしは、ぶつぶつこころかんしていたそうです。どうしてぶつぶつこころかんをしていたかというところ、むかしはお金がなかったからです。どんなものをこころかんしていたかというところ、さかなとお肉をこころかんしていたそうです。

むかしは、お金というものが、なかったことを知って、わたしはおどろきました。なぜかというところ、わたしはむかしから、お金はあるとおもっていたからです。

この本を読んで、わたしもいつか、ぶつぶつこころかんをしたいと思えました。友だちが、わたしに、すきなものをわたしてくれたらうれしいので、わたしも友だちに何かあれば、あいてがすきなものをわたしたいです。



奨励賞

りきし

図書名 どすこいすしずもう

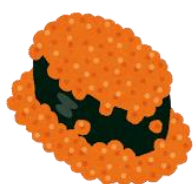
福島小学校 二年 阿部 結華

わたしは、ブックフェスティバルで本をえらびました。

おどろやまの絵が、おもしろかったことと、「どすこいすしずもう」のだいめいが、おもしろそうだったので、この本をえらびました。

わたしがこの本を読んで、一ばん心にとったのは、イクラまるの頭からイクラが、一つぶずつとれたところなんです。どうしてイクラを一つぶずつとったかというところ、サーモンザクラをイクラまるの頭のイクラで、ころばせるためです。そのあと、イクラまるの頭のイクラでころばせることができました。イクラまるの頭からイクラが気合を入れて出てきて強いと思いました。一つぶだとかてないけれどみんなできょうりよくをしたから、かてたのだと思いました。

わたしも、野きゆうでほかの人ときょうりよくをしたいとかんじました。なぜかというところ、一人だけの力だとかてなくても、みんなの力を合わせたら、かてるようになると思ったからです。これから、みんなと力を合わせて、がんばっていききたいです。



奨励賞

たすけあい

図書名 パンどろぼう おにぎりぼうやのたびだち

むらた みおひ

福島小学校 二年 村田 濤柊

わたしは、パンどろぼうおにぎりぼうやのたびだちという本をよみました。

どうして、その本をえらんだかと言うと、いつもはパンどろぼうですが、今回は、おにぎりぼうやだったから、わたしはすごくおもしろそう、その本にきょうみを、たくさんもちました。

この本を読んでみて、どの場めんが一ばん心にくったかと言うと、おにぎりぼうやが、カラスにおそわれたところです。

なぜおそわれたかと言うと、おにぎりぼうやが、カラスには、おいしそうにみえたからです。

その場めんを読んで、おにぎりが、カラスにつつかれているのが、いたそうでわたしは、かわいそうだと思います。

もし、この場めんのようにわたしだけでどうしようもないことがあったら、ほかの人にたすけてもらいます。

なぜかという、わたしも、みんなのことを、たすけたいからです。だれかがこまっていたらみんなでたすけあいしてたすけたいです。



奨励賞

海のたのしさ

図書名 ガリガリ君海へ行く

ふくい ひより

福島小学校 二年 福井 陽依

わたしは、この本のひょう紙を見たときに、海でガリガリくんがぶかぶかうかんでいて、それが楽しそうだと思ったのでえらびました。

わたしがこの本を読んで一ばん心にくった場めんは、ガリガリくんがいつびきのさかなをたすけた場めんです。

ガリガリくんはまいごのさかながかわいそうだったので、たすけたのです。

わたしは、この場めんを読んで、ガリガリくんがすごくやさしいと思いました。

なぜかという、ガリガリくんがいつびきのさかなをいえまでつれて行くのが、こまっているさかなをたすけて、やさしいと思ったからです。

この本を読んでわたしも、あそんでいるときに、こまっている一年生がいたら、すぐ話を聞いてお母さんのところへつれて行こうと思います。

どうしてかという、やさしい声で話してあいてをあんしんさせて、お母さんのところへつれていったら、一年生をたすけてあげれるからです。

これからも、こまっている人がいたらたすけます。



小学校中学年の部

最優秀賞

ソメヤくとカオルちゃんがなか間になるシーン

図書名 サイターなあいっ

福島小学校 四年

せき いちか
関 一花

わたしがこの本をえらんだ理由は、この本はおじいちゃんが買ってくれた本だからです。本の題名が「サイターなあいっ」だったので、「なにがサイターなんだろうな」「あいっってだれのことなんだろう」と気になったので読もうと思いました。

この本のあらすじは、主人公のカオルちゃんが、席がえてソメヤくのととなりになります。ソメヤくんはみんなのきらわれ者です。そんなソメヤくとカオルちゃんが少しづつなかよくなっていくお話です。

この本で心にのこった場面は、カオルちゃんが、悪いことをたくさんしているソメヤくと仲間になった場面です。なぜ仲良くなったのか不思議に思ったので心にのこりました。

心にのこった理由は、カオルちゃんはソメヤくと向き合っているからです。ソメヤくんは気持ちが悪く落ち着かないとき、人がいやがることをします。それを見ている人たちは、ソメヤくんの悪口を言います。しかし、カオルちゃんはソメヤくんにもどおりせつします。また、カオルちゃんは周りに流されることなく自分の気持ちをしっかり相手に伝えます。そんなカオルちゃんの心強さを、わたしはすてきたなと思いました。

この本を読んで分かったことは、本の題名「サイターなあいっ」の意味です。何がサイターであいつとはだれなのかというところ、ソメヤくんの悪口を言う人たちのことです。悪いことをたくさんするソメヤくんにも問題があります。だからといってソメヤくんの悪口を言うことは間ちがっていることと変わりません。それをソメヤくんだけ仲間外れにするのは間ちがついています。わたしは、ソメヤくとカオルちゃんが会えてよかったと思います。なぜならソメヤくんにとってカオルちゃんは心のよりどころだからです。気持ちを分かってもらえるだけでうれしいと思います。わたしもカオルちゃんのように、苦手だと思った人とも向き合っていこうと思いました。



優 秀 賞

友だちが見つかった子犬

図書名 友だちがほしかった子犬

かんとう せな

福島小学校 四年 管藤 泉那

わたしがしようかいしたい本は、「ともだちがほしかったこいぬ」です。この本を読もうと思っただけは、わたしが本のタイトルを読んで、友だちがない理由を知りたかったです。

この本の内容は、ある日、一匹の子犬が友だちを探すお話です。子犬は一匹きでさみしい様子です。だから友だちを探します。探している一人の女の子と出会います。たくさん遊び、そして友だちになったというお話です。

この本を読んでいちばん心にのこったことは、いつも一匹きでさみしかった子犬が、友だちを探しに行きます。そして一人の女の子と出会います。女の子は子犬のために歌を歌ってくれたり、遊んでくれたりします。

わたしがこの場で心にのこった理由は、子犬が長い時間友だちを探していたところ、やっと一人の女の子と出会い、そして友だちになったからです。子犬が長い時間友だちを探そうとがんばるすがたに感動しました。そして女の子も子犬のために歌を歌ってあげたり遊んだりするすがたがとてもやさしいなと思いました。

わたしがこの本を読んでわかったことは、二つあります。一つめは、友だちを探す気持ちも大切だということです。もし、友だちがいなくても、探すことで見つかるかもしれないからです。この本の子犬も友だちを探していなければ、一人の女の子と出会えていなかったかもしれません。この

本を読んでから、これからは友だちが来るのを待ったり、誰かに聞いてから話しかけたりするのではなく、自分から声をかけに行こうと思いました。二つめは、友だちのために何ができるかを見つけることです。一人の女の子のように、子犬がよろこぶために歌を歌ったりたくさん遊んだりしていました。わたしも、友だちがよろこぶために、帰りの会で取り組んでいることがあります。少しでもよろこんでもらえるとうれしいです。友だちがよろこんでもらえるようにいろいろと挑戦したいです。



優 秀 賞

死んでも心はのこる

図書名 わすれられないおくりもの

かんとう

なお

福島小学校 三年

管藤 椰将

ぼくは、「わすれられないおくりもの」という本を読みました。どうしてこの本を読んだかというと、三年生の国語のじゅぎょうで習う前に読んでみたいと思ったからです。

この本の主人公はアナグマです。アナグマは、いつもみんなにたよりにされています。たいへん年をとって、知らないことはないという位物知りでした。そしてアナグマは自分の年だと死ぬのが、そう遠くはないことも知っていました。でも死ぬことをおそれてはいません。死んで、体がなくなっても心はのこることを知っていたからです。友だちといっしょに走ったりできなくても友だちの楽しそうな様子を見て自分もしあわせな気持ちになれるからです。

夜になってアナグマは、ぐっすりねむってふしぎなすばらしいゆめを見ました。ゆめの中でアナグマは、走っています。足はしっかりと走ってもうつえもいりません。すっかり自由になったと感じました。

次の朝とうとうアナグマは死んでしまいました。友だちは、みんな、悲しんでいたけど少しずつアナグマとの思い出を語り合うようになりました。モグラは、ハサミのつかい方を教えてもらいました。カエルは、アナグマにスケートのすべり方を教えてもらいました。キツネは、ネクタイのむすび方を教えてもらいました。アナグマはひとりひとりにわかれたあとでも、たからものとなるようになちえや工夫をのこしてくれました。



ぼくは、おくりものは、プレゼントだと思っていただけ、この本を読んだアナグマからのおくりものは、生活するためにひつようなちえや工夫だということがわかりました。死んでしまっても教えられたことを思い出すときアナグマのことも思い出して、ずっとわすれないでいられるんだと思います。

ぼくも、アナグマのように教えたりする人になりたいです。いろいろなことをおぼえてこまった人をたすけたいと思いました。

奨励賞

みんなでおいしいチョコ食べよう。

図書名 きょうれつのできるチョコレート屋さん

きたむら めいさ

福島小学校 三年 北村 明彩

わたしは、「きょうれつのできるチョコレート屋さん」という本を読みました。この本との出会いは、ブックフェスティバルです。たくさんあった本の中でこの本をえらんだ理由は、題名がおもしろそうだったからです。どうして、おもしろそうだったかというところ、「きょうれつのできるチョコレート屋さん」というのはどんなチョコレート屋さんなのか気になったからです。

どんなお話かというと、キタリスくんとシマリスくんがチョコレート屋さんをはじめたお話です。

心にのこったことは、作ってあげておたがいにチョコをあげてる場面が心にのこりました。

なぜ心にのこったかというところ、本の中のどうぶつたちがしあわせそうだったからです。

なぜしあわせそうだったかというところ、あいての気もちを思いやる感じがしあわせそうだったからです。

わたしもじゅぎょう中アドバイスももらったときすなおになれなかったときがありました。今思うとアドバイスしてくれた人の気もちを考えていなかったと思います。

この本を読んであいてのことを思うことは、すごく大事だと思いました。みんながえがおでしあわせになる大切なことだと思いました。

あと一つは、みんながえがおでキタリスくんとシマリスくんが作ったチョコレートを食べるところが心にのこった場面です。

わたしの予想ではそのどうぶつたちがチョコレートをおいしいと言ってキタリスくんとシマリスくんがうれしいと思っているといます。お母さんがいつも作ってくれるおりよう理をわたしがえがおで食べていたらお母さんは、きつとうれしいと思います。だからわたしは、なるべくえがおで食べたいと思います。

今までは、えがおで食べられなかったときもあるので、お母さんをかなしい思いにさせたかなと思いました。

この本を読んでわたしがわかったことは、もっとすなおにするべきだということです。あしたからみんながえがおでしあわせになれるようにいろいろなことを考えてこうしたいと思います。



奨励賞

休戦してサッカーしよう

図書名 戦争をやめた人たち

さいとう

はると

福島小学校 三年

齋藤

春翔

ぼくは、「せんそうをやめた人たち」という本を読みました。この本との出会いは、ブックフェスティバルです。たくさんの本がならんでいる中で、この本をえらんだ理由は、たたかいや、じゆうが、大きだからです。

この本のないようは、第一次せかい大せんでせんそうをしていた、イギリス軍とドイツ軍が、クリスマスの日に休せんした話です。クリスマスには、なかよくサッカーをしていました。クリスマスがおわると、またせんそうをはじめて、五年くらいたった後にやっとせんそうが終わったという話です。

ぼくが、心にのこった場面は、クリスマス休せんのに、へいしたちがなかよくサッカーをしていた場面です。なぜ心にのこったかというと、自分もサッカーがすきだから自分と同じだなど思ったからです。次に心にのこった場面は、ドイツ軍がきよしこの夜を歌っていた場面です。なぜ心にのこったかというと、ぼくと友だちみたいだったからです。次に心にのこった場面は、わかいへいしが、サッカーボールを作った場面です。なぜ心にのこったかというと、ぼくも、工作がすきだから心にのこりました。この場面にぎもんに思ったことは、大ほうのほうだんをサッカーボールにしたかということ。ほうだんはあぶないのに、なぜ、ほうだんをサッカーボールにしたかがぎもんです。

ぼくがもし、サッカーボールを作るなら、コナツツでサッカーボールを作ります。だけど、この第一次せかい大せんときは、せんそう中だったので、ほうだんしかないからほうだんにしたんだなと思いました。

せんそうは、たくさんが死にます。すむところもなくなり、学校もなくなり、自由な生活も出来なくなってしまう。ぼくは、学校に行ったり、友だちと遊んだりできるので、それが出来なくなったら、とてもさみしいし、悲しいです。みんなが、悲しくなるので、いやだなと思いました。

ぼくは、この本を読んで、せんそうは、ぜったいにしてはいけないと思いました。



奨励賞

ふしぎな石

図書名 ひかる石のおはなし

わたなべ

あいり

福島小学校 四年

渡邊

愛梨

私がこの本を選んだ理由は、本のタイトルを見ると、「ひかる石のおはなし」とあるので「石が光ってしゃべるのかな？」と不思議に思い、おもしろそうだなと思ったので選びました。

この本の内容は、ある日、家に帰る途中、主人公の楓は、丸くて青みがかったきれいな灰色の石を見つけます。楓は性格が暗い様子です。しかし、この石のおかげで明るい性格に変わっていくというお話です。

この本で心にのこっていることは、家族の名前の由来、お母さんのことを友達に話したくなる気持ち、石のすきさについてのしよいかい、家に帰ると中で見つけた石の4つです。

なぜ心にのこっているのかというと、まずお父さんといっしょに話していると、天国に行ったお母さんも話を聞いてくれていると感じます。だからなのか、友達にもきんちょうすることなくお母さんについての話ができるようになります。私は主人公の楓がきんちょうもすることなくお母さんについての話ができることにすこいなと思いました。

次に石のすきさについて、お父さんがしよいかいしてくれました。お父さんは「石の中にはもともと木や植物、動物の骨だったものがあつたりするんだ」と言っていたので、すこいと思ひ、おどろいたので心にのこっています。

この本を読んで分かったことは、主人公の楓の気持ちの変化についてで

す。最初、楓は「しゃべりたくなつたら、しゃべろう」と思っていました。時間が経つにつれて、楓はだんだん「しゃべろう、話そう」という気持ちに変わったのです。また、楓はお母さんについてもっと知りたいと思ひお父さんから聞きます。そして聞いたことを友達にも知ってほしいと思ひ、しゃべります。そんな主人公の気持ちの変化を読み取って、「私がおもひ主人公の立場だつたらどうだつたのかな？」と思ひました。暗い性格だつた楓から明るい性格になつた楓の様子を天国からみているお母さんは、きつと「よかつた」と思っているのかなと思ひました。



小学校高学年の部

優秀賞

お金では買えない大切なもの

図書名 三日間の幸福

福島小学校 六年 角谷 稀唯

もし、寿命一年につき一万円で売れるとしたら、あなたは売りますか。この本は、恋をしてしまった人に自分の寿命を売って愛を捧げる非日常的な物語です。

「寿命を売る」という設定は、ポップソングの歌詞などにもありますが、実際に寿命を売れるとしたら私は売りたいくありません。そもそも、一年につき一万円なんて安すぎるし私はいくらお金を積まれても自分の寿命を売りたいくありません。

ただ、この本を読んでお金を稼ぐということは、とても大変なことなのだと思いました。

私たちが生活するためには、お金は必要な物です。食べる物、着る物、何かのサービスなど、お金がかかるものがほとんどです。そのお金を稼ぐために、私たちは働かないといけません。私はまだ働いたことがないので分かりませんが、やっぱり働いていると大変なことあるのだろうと思います。一万円を稼ぐというのは、きつととても大変なこと。でも、一年の寿命の価値に比べると、一万円を働いて稼いだ方が良いと思いました。

正直、私は今まで「寿命」についてあまり考えたことがありませんでした。自分にとって「寿命」は距離があり、自分にはまだ関係が薄いものだと思います。「死」も私には遠い未来であり、あまり意識することがありませんでした。ただ、この本を読んで、「生きること」について少し考えました。

私は、ただ普通に生きてみたいです。美味しいものを食べ、動画を楽しみ、家族と旅行に行ったり、空手の練習に励んだり…。ただ、そんな当たり前の普通の日々も、実はずっと続くものではなく、かけがえのない大切な時間であることに気づきました。

だからこそ、私は自分の時間を大切にしたいです。当たり前の普通の日々を今まで以上に大切にしていきたい。この本を読んでそんなことを思いました。

命はそれぞれに与えられたかけがえのないものです。みなさんも自分の命を大切にしていきたいでしょう。



優 秀 賞

反応することを大切に

図書名 りゆうがあります

おおの りな

福島小学校 六年 大野 莉奈

「ちゃんとした理由があれば、鼻をほじつてもいいんじゃないだろうか。」
私がこの本を選んだのは、本の表紙に書いてあったこの一文に興味をもったからです。

今まで私は人前で「鼻をほじること」はマナーに反することであり、そもそも汚いことだと思っていました。でも、もし相手にどうしてもそれをしないといけない理由があるのなら…。私は、少し自分の考えを見直さないといけないと思いました。

この本は、小さな男の子が一般的に人前でやってはいけないこと、例えば鼻をほじったり、貧乏ゆすりをしたりすることに自分なりの理由をお母さんに伝え納得させようとするお話です。

鼻をほじるのは頭からウキウキビームが出るから、貧乏ゆすりはモグラとの交信に使っているなど、正直、その理由はどうしようもないものです。だから、私だったら「そんな屁理屈を言っていないで、やめなさい。」と言ってしまいそうです。

でも、このお話に出てくるお母さんはとてもすごい人です。たとえ理由がとんでもなくひどいものでも、まずは子どもの質問にしっかりと向き合い、反応をちゃんと示してくれます。そんなお母さんの優しさがとても素敵だと思いました。また、お母さんがしっかりと子どもの理由に反応す

るので、男の子の理由はとんでもないものが多いけど、発想力がついているように思いました。もしかしたらこの男の子はその発想力で将来すごい発明をするかもしれない。そんなことを私は思いました。

この本を読んでみて、特に考えたとは「反応の大切さ」です。人にとつてはくだらない内容でも、冷たい反応をするのではなく、ちゃんと受け止めてあげることが大切だということが分かりました。

私は、いつも人と接するとき、しっかりと相手の話を聞いてあげることが心がけています。

これからも、その姿せいを大切にしていきたいと思いました。



奨励賞

仲良くしたいのに

図書名 天使のかいかた

福島小学校 五年 馬躰ばたい 希咲きさき

私が、この本を読もうと思ったきっかけは、移動図書で見つけて私には天使が見えないのにどのように天使を飼うのだろうと不思議に思ったからです。

私が一番に心に残ったことは、転校生が来たけれど最初と違ってその子の短所を見つけてみんなきらいになってしまいました。でも、仲よくなりたから自分の気持ちを伝えるという場面です。

特に、主人公のさちがずっと思っていたことを言う時、どんな気持ちでどんなに勇気がいるんだろうと思いました。なせ心に残ったのかというと、転校生のきのこちゃんが来てクラスみんなは嬉しかったけどだんだんいやな所を言ったりして仲間はずれにしたりします。でも天使のエサはさちのお話なのできのこちゃんのことを話しました。どんどん気持ちが晴れて最後には大きな声で、

「さちは、きのこちゃんのことがい好き。」と言いました。

私は、この本を読んで分かったことは、自分一人でモヤモヤをかかえこまないで自分の気持ちを言葉に表して伝えることが、大事な時もあるし言ったら周りの人がいやな気持ちになってしまう時もあるからしっかりと伝える場面を考えることが大事だと思います。

この本を読んで私は、主人公のように相手の気持ちを考えながら話すこ

とが大事だと思います、その場で思ったことを言ってしまう所が変わりました。私は、自分の天使にこまってる時や悲しい時にいつもささえられているんだなと思いました。

これからは、前の私みたいにながまんでできなくて思いのまま言ってしまうだけがいいんじゃないかと周りの人の事も考えて話したいです。むずかしいけど私は、がんばってちよう戦したいと思いました。

私は、絵をかくことが好きだけど上手にかけない時があります。気持ちがむしやくしゃしても人をきずつけないのが、とても大切です。



奨励賞

失敗をしても前を向いて

図書名 ふしぎ町のふしぎレストラン

福島小学校 六年 岡 洸樹 おか こうじゅ

「何があっても前を向いて、何度も何度も挑戦することが大切だ。」
それが、ぼくがこの本を読んで学んだことです。

この本は、人間からライオンとヒツジに変えられてしまった二人がレストランで働き、美味しい料理を作ったくさんのお客さんを満足させることができた元人間に戻ることができる。という物語です。

この本に出てくるお客さんは、色々な悩みや過去に受けた心の傷を抱えています。そんなお客さんに、ライオンシェフたちは優しく真剣に寄り添い、料理で心を癒します。そして、お客さんは前を向いて、また一歩、歩き始めるのです。

私も体に大ケガをしたことがあり、その時はどうしても気持ちを前に向けることができず、落ち込みました。そんな、私を家族や友達はこの本に出ってくるライオンシェフやかんごしのように優しく真剣に寄り添ってくれました。あの時の家族や友達の言葉や姿に僕はどれだけ励まされ、勇気づけられたか分かりません。今でもたまに思う。あのとき、ぼくは何人の人に助けられたのだろう。と。自分が弱っているときにこそ、改めて他者の優しさのありがたみを実感する。そんなことを、この本を読んで思い出しました。

だからこそ、ぼくは、何があっても前を向いて何度も何度も挑戦する人

でありたいです。

そして、ぼくにはそんなぼくの挑戦を応援し、励ましてくれる人がたくさんいる。その事実があるだけで、ぼくはしつかり前を向くことができるように思いました。きっと、レストランにきたお客さんたちもぼくのような気持ちになったのではないかと思います。他者との関わりの大切さを改めて感じました。

また、ぼく自身も自分が助けてもらっただけでなく、誰かを助けられるような人になりたいです。

自分が苦しいときにどんな言葉や仕草が嬉しかったか、どんな対応がその人の心に寄り添うことにつながるのか、相手のことをよく考えながら、自分なりに誠実に関わっていききたいです。

この本を読んで考えたことや学んだことを大切に、これからも前を向いて生活していこうと思えました。



奨励賞

勇気を出して

図書名 みんなのためいき図鑑

福島小学校 六年 田中 紗彩

この本を選んだきっかけは、少し前から「人は、なぜためいきをつくのだろう。」と考えていたからです。自分の思ったとおりに上手くいかないとき、何となく面倒くさいとき、私はついいためいきがでます。でも、なぜそういう状態の時にためいきがでるのだろう。

そんなことを考えていた私が出会ったのが、この「ためいき図鑑」です。この本は、授業参観に向けて主人公の「たのちん」のクラスの班の人たちが「ためいき図鑑」をつくることから物語が始まります。

私がこの本を読んで、印象に残った登場人物がいます。それは、「ためいき小僧」です。

ためいき小僧は、主人公のクラスメイトである理由で教室に入ることができず、保健室登校をしている加世堂さんが描いた絵から出てきた妖精みたいなキャラクターです。ためいき小僧は主人公とそっくりな外見で、班の人たちとの人間関係で悩む主人公を励ましたり、アドバイスをしたりします。私にも、ためいき小僧のような妖精がいてくれたら…。

ちよつと主人公がうらやましく思いました。

この本を読んで、私の中で今の自分から変わりたいと思ったところがあります。それは、「どんな時でも勇気を出して物事にチャレンジすること」です。

この物語の主人公であるたのちんは、どんなことにも勇気を出して挑

戦します。正直今の私は、勇気を出して様々な物事に挑戦していません。失敗を想像して、傷つくことを恐れて、一歩も踏み出すことができない自分が嫌。でも、たのちんは、悩みながらも苦しみながらも勇気を出してためいき小僧と一緒に前へ進みます。そんな姿が私はとてもカッコいいと思いました。少しでもそのカッコいい姿に近づけられるように、勇気を出して様々な物事に挑戦してみたいです。

また、挑戦を応援してくれる人を大切にしたいです。たのちんは、勇気ある行動をとるだけでなく、自分を支えてくれる周りの人への感謝の気持ちをもっていました。自分を支えてくれる人たちがいることに気づき、感謝することができると。私の周りにも自分を支えてくれるたくさんの人がいますが、当たり前すぎて感謝の気持ちで薄れていたように思います。今後はしっかりと感謝の気持ちをもって私を支えてくれる大切な人と関わっていきたくです。自分だけでがんばっているのではない。たくさんの支えてくれる人たちのおかげで勇気をだしてチャレンジできるのだ。そんなことを考えるきっかけになった本になりました。



中学生の部

優秀賞

この父さんの素晴らしさ

図書名 いのちのリレー

やまだて ゆめか

福島中学校 一年 山館 夢花

皆さんにとって命とはどのくらい大切なものだろうか。この本は命の大切さ、争いの切なさを教えてくれた。

いのちのリレーという題名に興味を持ち選んだが、思っていたよりも、悲しいお話で、命の大切さを学ぶ事ができた。

この本は、戦争のお話で差別も酷い。十二歳のアハメド君がネクタイを買いに出かけた時に敵の狙撃兵に頭を打たれ、病院に運ばれたが脳死と診断されてしまう。親は悲しんだが、主治医から臓器移植の提案をされた。だが、提供する先は、こちらからは選べない。敵の子に提供する事になるかもしれない。悩みに悩んだ結果、父親は家族や地区の人と相談した上で平和を望み、提供する事を選んだ。という出来事から始まるおはなし。

この事を知った主人公「ぼく」がこのお父さんと会い、臓器を提供した、子供の家へ行くのですが、この主人公は、このお父さんのことを、「息子をイスラエル兵に撃たれた。にもかかわらず…愛するわが子の臓器をイスラエルの病気の子どもに与えいのちを救ったパレスチナ人のお父さん」と言った。この『にもかかわらず』が、閉塞した世界を変えるのではないかと思っている。私はこの文を読んで、「にもかかわらず」とは、前に述べた事柄と反

対な事柄を述べる時、その間にはさんで使う語。…なのに。という意味だが、この本の中では、人思いという意味なのだと思います。

そして、二人でアハメドの心臓を移植した、マサハちゃんという女の子の元へ行ってみる。その女の子に日本らしい、着物をプレゼントとして持って行った。マサハちゃんは着物が気に入り、知らない人には会わないと言っていたが、出てきてくれた。マサハちゃんのご両親は、提供についてとても感謝していた。アハメドのお父さんは、「息子の心臓がマサハちゃんのなかで動いている。ふしぎな気持ちだ。アハメドが今も生き続けているような気がする。」とマサハちゃんの肩にそっと両手を置いていった。アハメドのお父さんの目がうるんでいる。私はこの文を読んで、これこそまさに命のバトンタッチだと思った。アハメドの命がマサハちゃんを生かしている。そんな感動的な気持ちを持つと同時に、アハメドのお父さんの悲しい気持ちも伝わってきた。愛する息子が亡くなり、でも息子の心臓のおかげで、マサハちゃんは生きている。息子もマサハちゃんのように元気に生きていたらと。アハメドのお父さんの気持ちを考えると、私も目に涙が浮かぶ。そして改めてアハメドがなくなったという立ち上がれないほどの悲しい気持ちでいっぱいという事「にもかかわらず」移植提供を決断したという平和を望むという正義の心を持ったアハメドのお父さんの凄さ、偉大さに気づいた。

私はこの本を読み、命の大切さ、また、「にもかかわらず」という思いやりの大切さを学んだ。そしてもう一つ。争いの切なさを学んだ。争いをして、何も良いことがない。互いが互いを憎み、幸せな結果になんてなるはずがない。皆さんにもこの本を読んで、命の大切さを学んでほしい。



奨励賞

すこしの勇気で

図書名 ほんのすこしの勇気から

よしざわ すずね

福島中学校 一年 吉澤 鈴音

皆さんは戦争についてどのように思いますか？

私は、反対です。なぜなら戦争のせいで多くの人が犠牲になってしまったり、家族と離れ離れになってしまい、辛い思いをする人がいるからです。

私が今回読んだ本は、戦争に係る本です。この本は、戦争をしている国からオレアちゃんという子が避難してきて、主人公の私とだんだん仲良くなるというお話です。

私が心に残ったことは、二つあります。

一つ目は、わたしの、行動についてです。オレアちゃんは、わたしの隣の席になったのですが、初めは話してみたいという気持ちは、あったのですが「もし言葉が通じなかったらどうしよう」などの不安やお互い緊張していたこともあり話せずにいました。そのまま、少し経ち、ある日音楽の授業がありました。そこで、みんなで歌っていたのですがオレアちゃんが小さな声で泣いていたんです。そこで、わたしは勇気を出して

「ラララで歌おう。」

と言ったのです。するとその様子に先生が気がつき、先生もクラスみんなもラララで歌い始めたのです。この行動のおかげでオレアちゃんは、安心することができたと思います。また、みんなと歌えたのでオレアちゃんも私もクラスのみんなども嬉しかったと思います。もし、私がこの場面にあったとしたら勇気がでずに声をかけることすらもできずに、心配だけしてしまっていたら

と思います。そういうときに声をかけてあげて心配してあげられる私の行動力は、すごいと思いました。「ほんの少しの勇気で」というのはこのことなんだなと思いました。

二つ目は、オレアちゃんの国での戦争についての事です。オレアちゃんの国では、国の取り合いで戦争になってしまいました。その関係でオレアちゃんの家族は、お兄さんは軍隊に行ってしまったりお父さんは無理やり銃を持った人に連れて行かれてしまったり家族が離れ離れになってしまいました。それに、オレアちゃんは家がなくなり、ご飯も食べられなく道端で寝て、大変な生活をしながらこの日本にやってきたのです。この生活を、何日も何日も続けると考えるだけで大変だし辛いと思います。私が、オレアちゃんだったら家も奪われて家族とも離れ離れになり寒い中、道端で寝るなどの生活は、一日もできないと思います。

この本を読み、「小さな勇気」で結果が変わってくるし周りの人を救えたり、笑顔にできるんじゃないかなと思いました。

また、わたしたちは、普段から温かい家で家族みんなでテレビを見たり、ゲームをしたりして私たちにとっては普通の生活をしています。けれどオレアちゃんのように戦争で家がなくなったり家族と離れ離れになってしまっている人もいます。私たちにとって普通の暮らしでも他の国の人や他の地域の人にとっては、普通ではないかもしれませぬ。今、この暮らしができていくことに感謝して一日、一日を大切に生きようと思いました。



奨励賞

言霊く野球魂を熱くさせる言葉く

図書名 ことだま 野球魂を熱くする名言集

よしだ ひなた

福島中学校 二年 吉田 陽向

【野球に人生を捧げる事は人生を学ぶに等しい。だからだろう、野球を極めた名監督や名選手の言葉にはこれからの人生を後押ししてくれる力強さがある。ときに折れそうな心を支えてくれる優しさがある。そうした「野球の言葉」は、白球にのって「ことだま」となってグラウンドに響くのだ。】
と、この本には書いてあります。そして沢山の選手・監督の名言も書いてあります。その中で、自分の心にもすごく刺さった言葉を三つ紹介します。

一つ目は、「日常生活こそ野球に結びつく。日常生活をいい加減にしたら、野球もいい加減になってしまう。」という言葉です。この言葉は、岡田貴弘さんという野球選手が残した言葉です。日常生活をきっちりする事で、野球もきっちりできるようになるというもので、自分も、よく部活の先生方に「野球をやる以前の問題をしっかりしろ」と、言われていました。野球と日常生活は完全に繋がっているのです。毎日沢山ご飯を食べないと、パワーは付かないし、毎日沢山寝ないと体は大きくなりません。日常生活をきっちり過ごす事で、自然と野球のレベルも上がっていくのです。

二つ目は、「野球を楽しむこと。でも、試合で結果が出なければ楽しくない。野球を楽しむためには、苦しい練習が必要です。」という言葉です。この言葉は、坂本勇人さんという読売ジャイアンツに所属している現役選手が残した言葉です。まず根本的なものは、「野球を楽しむこと」で、野球を楽しむためには辛くて苦しい練習が必要、でもその練習をする事で、試合で活

躍する事ができる、試合で活躍すると楽しい、楽しいとまた野球の練習がしたくなる、というループが始まります。練習で苦しくなり、そこで諦めてしまつと、楽しい野球は絶対にはできません。辛く苦しい練習があるからこそ、楽しい野球ができるのです。

三つ目は、「バッティングでダメだったら守備で頑張ろう。守備がダメだったらバットで取り返そう。引きずつたまま、どっちもダメっていうのが最悪じゃないですか。」という言葉です。この言葉は山田哲人さんというヤクルトスワローズに所属している現役選手が残した言葉です。正直、この言葉が一番心に刺さりました。「人だから失敗するのは仕方ない。大事なのはその後、気持ちを切り替えてどれだけ取り返せるかだ。」と語っていて、本当にその通りだと思いました。自分は、一度ミスをするとならずと引きずつてしまいい、その後のプレーも疎かになってしまいます。人間なんだから失敗は当たり前前、その失敗を乗り越えて、良いプレーをすれば良いという気持ちでこれから頑張ろうと思います。

という事でこれまで、僕の心に刺さった言葉を紹介しました。この本を読んでみて野球に対する意識が変わり、改めて野球は奥が深いスポーツだなと感じました。僕が紹介したものの他にも沢山の言葉がこの本には書いてあります。どれか一つは心に残るものがあると思うので、野球人には絶対読んで頂きたいです。大好きな野球をこれからもずっと続けていきたいと思っています。



奨励賞

戦争の苦難

図書名 この世界の片隅に

なかつか みゆう

福島中学校 二年 中塚 心優

姪を殺し、絵を描くための腕までも飛ばした戦争に対してのすずの怒りが心に刺さったからです。

二つ目は、みんながすずの「生きとつてくれてよかった。火を消し止められてよかった。」と言ってくれるのに対して、すずは「よかった、よかった、どこがどう良かったんか、うちにはさっぱりわからん。」と思う場面です。理由は、すずのその時の戦争に対しての絶望、生きてさえいければいいという考えもその通りだとは思いうけれど、たくさん被害が出ているのに良いわけがないと考えさせられる場面だなと感じたからです。

この本は、広島で生まれたすずが十八歳で呉に嫁ぎ、戦争が世の中の空気を壊していく中、一人の主婦として前を向いて生きていく戦時下の広島を生きるすずの日常と軌跡を描く珠玉の物語です。戦争の辛い話だけでなく、普段の生活の中の日常的な家族との話だったり近所の人たちとの楽しい話も描かれています。私はこの本を読んで、悲しい気持ちになり、同時に、戦争の中を生きてきた人たちの強さに驚きました。悲しいこともあったはずが、表には出さずみんな明るく振る舞っていてすごいなと思いました。そして、この本を読むことで戦時中、戦後と、主人公すずが日々を生きる姿を描くと同時に、彼女の中にある「相反する思い」が日々常にあり、それが「笑い」「怒り」「悲しみ」などを重ね、織り交ぜてありその時代の背景がよくわかりました。

この物語では当時の暮らしの厳しさや真っ直ぐに生きる姿が感じられる作品です。その中でも、私が「この世界の片隅に」を読んで心が動かされた場面は二つあります。

一つ目は、自分たちの家に焼夷弾が屋根を破り、板の間へ落ちてきた場面です。この場面では、その時のすずの「なんでこんなことになるんじや。うちらが何をしたんじや、。」という言葉が戦争に対しての怒りが込められていて、その怒りに共感し、これだけ大変だったのかと思いました。そして、いつもは能天気、ドジ、お人よし、絵を描くのが好きですすずに懐いてた

私がこの本を読んで学んだこと・自分の考えが変わったことは、戦争は戦っている人たちも、それを応援している人達も全員辛かったことです。特に、すずが泣き叫んでいるシーンでは戦争することの無意味さに絶望している姿に共感しました。そして、日本が負けてしまった時の人々はどのぐらい悲しかったのかを考えると本当に悲しい気持ちになりました。

もし私がこの時代に生きていたら、すぐに生きるのを諦めていて絶望していたと思います。なので、すずを含め、この時代を生きていた人たちはどんなにしんどくても、生きる希望が目の前で吹き消されたとしても、ブレずに代わりに死んでいってしまった人たちのためにかく精一杯一日一日を生きていてその強さはすごいなと感じ、刺激を受けました。

私はこの物語を通して、私を知っていたよりも、戦争が起こっている中で、の住んでいる人々たちの生活はすごく大変なもので、苦難を乗り越えながら真っ直ぐに生きてきたことを学びました。そして、今はどれだけ幸せなのだろうか。戦争はどんなことがあったとしてもいいことではなく、二度と起こしてはいけないなと感じました。



令和6年度 読書感想文コンクール作品応募状況

〔各部門別応募作品数〕

○小学校低学年（1・2年）の部	15篇
○小学校中学年（3・4年）の部	31篇
○小学校高学年（5・6年）の部	24篇
○中学生の部	22篇
合 計	92編

〔各学校別応募作品数〕

—小学校—

学 校 名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
福 島 小 学 校	—	15	16	15	9	15	70
計	15		31		24		70

—中学校—

学 校 名	1年	2年	3年	計
福 島 中 学 校	9	2	11	22

読書感想文を応募してくれた皆さん

●福島小学校●

2年 (15名)

阿部 結華、有惠 琴美、石岡 稜聖、岡 咲有美、小熊 瑛菜
小美浪雅工、坂口 柊真、佐藤 晴臣、對馬 偉央、中村 詩乃
福井 陽依、藤村 奏汰、村田 濤柊、村田 珠音、吉澤 裕真

3年 (16名)

阿部 姫華、石岡 大聖、荻野 大地、角谷 瑛宙、管藤 椰将
北村 京大、北村 明彩、小林 楓汰、齋藤 春翔、坂口 穂果
佐藤 湊翔、砂山 知遥、西山 すす、村上 碧人、村上 光一
山館 晴馬

4年 (15名)

有惠 優成、飯田夕羽美、上嶋 朋花、管藤 泉那、北村 りり
木村 雄星、小林 詠夢、小間 柚羽、小美浪大雅、渋谷 莉瑚
島本 海央、関 一花、相馬 月光、村田 奏音、渡邊 愛梨

5年 (9名)

飯田 侑斗、坂口 濤、馬躰 希咲、平野ベニカ、丸井 朋弥
村田 埜生、安田 莉々、吉澤 亜純、吉田 陽葵

6年 (15名)

石川 帆乃、大野 莉奈、岡 洗樹、角谷 稀唯、小鹿 紅葉
島本 琉希、砂山 大知、高田 友結、田中 紗彩、對馬 蓮
中塚 凌雅、中村 由芽、藤村 結愛、村田 絢音、村田 稀生

●福島中学校●

1年 (9名)

石川 創、大野 結翔、小鹿 希空、渋谷 碧唯、水澤 夢来
山館 夢花、湯淺 愛空、吉澤 鈴音、渡邊 颯人

2年 (2名)

花田 颯、吉田 陽向

3年 (11名)

阿部 瑛太、石岡 龍聖、川本 玖季、木村 祥吾、佐藤 日咲
鈴木 海音、中塚 心優、中村 柊太、安田 華、吉田 太陽
吉田 龍登

讀
書
感
想
畫

入
賞
作
品

小学校低学年の部

最優秀賞



アザラシがシャチにたべられそうになったようす

図書名 アザラシのアニュー

吉岡小学校 一年

新山 にいやま
圭瞬 けいしゆん

優秀賞



ありのすにたまごをうむちょう

図書名 アリとくらすむし

福島小学校 一年

坂口 さかぐち
碧斗 あいと

優 秀 賞



クラゲはかなしい

図書名 クラゲのおつかい

福島小学校 二年

小
熊 おぐま

瑛
菜 えいな

奨 励 賞



やさしいおばけ

図書名 おばけの猛暑日

福島小学校 一年

齋
藤 さいとう

勇
翔 ゆうと

奨励賞



お風呂で50かぞえるところ

図書名 お風呂だいすき

福島小学校
一年

湯浅 ゆあさ

太鳳 たお

奨励賞



すききらいをなくそう

図書名 もったいないばあさんのいただきます

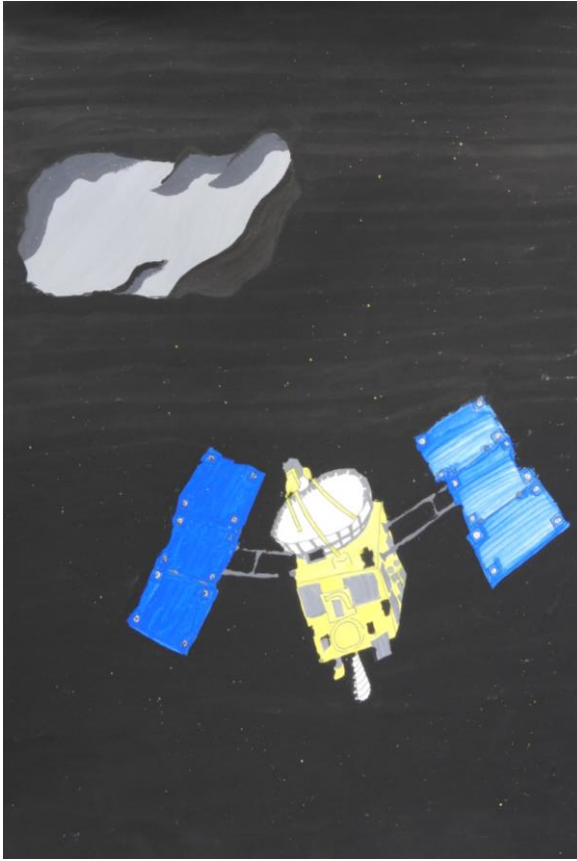
福島小学校
二年

佐藤 さとう

晴臣 はるおみ

小学校中学年の部

最優秀賞



はやぶさ 宇宙でのミッション

図書名 小惑星探査機「はやぶさ」宇宙の旅

福島小学校 四年

上嶋 かみしま

朋花 ともか

優秀賞



あおむしとちょうの絵

図書名 はらぺこあおむし

福島小学校 三年

村上 むらかみ

碧人 あおと

優秀賞



森くんのだっそうしたねこが見つかった時

図書名 ぼくのねこポー

吉岡小学校 四年

水澤 みずさわ

千愛 せら

奨励賞



わたしが先生とさんぽをしている。

図書名 あかちゃんペンギン

福島小学校 三年

阿部 あべ

姫華 ひな

奨励賞



サッカーしようぜ！

図書名 戦争をやめた人たち

福島小学校 三年

齋藤 さいとう

春翔 はると

奨励賞



ソメヤくんとカオルちゃんがなか間になるシーン

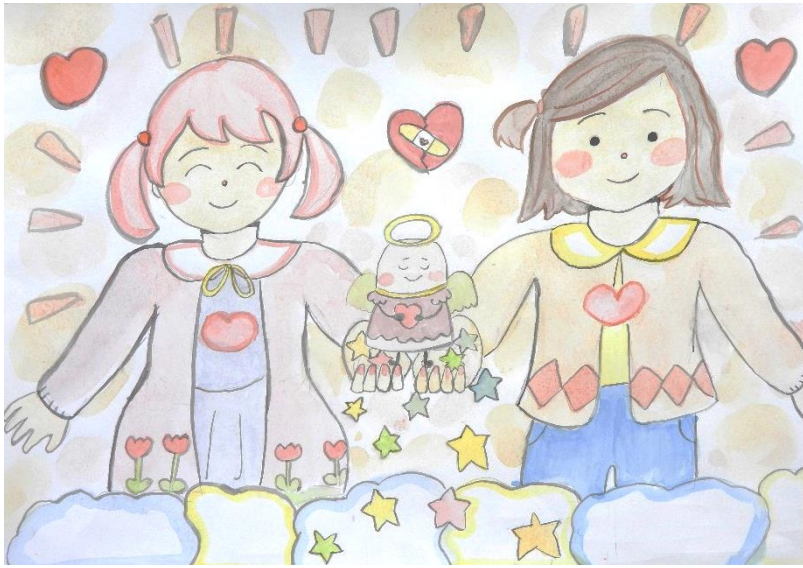
図書名 サイトーなあいつ

福島小学校 四年

関 せき

一花 いちか

最優秀賞



心のおとどけ物

図書名 天使のかいかた

福島小学校 五年

馬躰 ばたい

希咲 きさき

優秀賞



世界一のけいさつ犬

図書名 警察犬になったアンズ

福島小学校 五年

吉澤 よしざわ

亜純 あすみ

優秀賞



福島小学校
六年

村田 むらた

稀生 きい

友達の為に

図書名 アレクサンダとぜんまいねずみ

奨励賞



吉岡小学校
五年

新山 にいやま

芽依 めい

図書室のできごと

図書名 恐怖のなぞが解けるとき 3分後にゾッとするラスト
やっと会えたね

奨励賞



信用してくれたんだね。

図書名 ひまわりと子犬の7日間

福島小学校 五年

吉田 よしだ

陽葵 ひまり

奨励賞



友達の大切さ

図書名 さかなはさかな

福島小学校 六年

村田 むらた

絢音 あやね

最優秀賞



うそをついたけれども

図書名 ぼくはうそをついた

福島中学校 二年

角谷 かどや

琉唯 るい

優秀賞



夢をかなえる空

図書名 ディズニー 夢をかなえる神様が教えてくれたこと

福島中学校 二年

岡 おか

歩那美 ほなみ

優秀賞



福島中学校
三年

吉澤 よしざわ

舞雪 まゆき

僕が声を描く

図書名 君の傷痕が知りたい (声を描く君へ)

奨励賞



福島中学校
三年

福田 ふくだ

瑞姫 みずき

犬が居場所をみつけてくれた

図書名 孤独の果てで犬が教えてくれた大切なこと

令和6年度 読書感想画コンクール作品応募状況

〔各部門別応募作品数〕

○小学校低学年（1・2年）の部	30作品
○小学校中学年（3・4年）の部	33作品
○小学校高学年（5・6年）の部	30作品
○中学生の部	10作品
合 計	103作品

〔各学校別応募作品数〕

—小学校—

学 校 名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
福 島 小 学 校	10	15	16	15	10	15	81
吉 岡 小 学 校	2	3	1	1	5	—	12
計	30		33		30		93

—中学校—

学 校 名	1年	2年	3年	計
福 島 中 学 校	—	6	4	10

読書感想画を応募してくれた皆さん

★福島小学校★

1年（10名）

上田陽央莉、小間 湊介、齋藤 勇翔、坂口 碧斗、三鹿 聖真、田中 昊、
松岡すみれ、三関 遥稀、湯淺 鳳介、湯淺 太風

2年（15名）

阿部 結華、有恵 琴美、石岡 稜聖、岡 咲有美、小熊 瑛菜、小美浪雅工、
坂口 柊真、佐藤 晴臣、對馬 偉央、中村 詩乃、福井 陽依、藤村 奏汰、
村田 澪柊、村田 珠音、吉澤 裕真

3年（16名）

阿部 姫華、石岡 大聖、荻野 大地、角谷 瑛宙、管藤 椰将、北村 京大、
北村 明彩、小林 楓汰、齋藤 春翔、坂口 穂果、佐藤 湊翔、砂山 知遥、
西山 すず、村上 碧人、村上 光一、山舘 晴馬

4年（15名）

有恵 優成、飯田夕羽美、上嶋 朋花、管藤 泉那、北村 りり、木村 雄星、
小林 詠夢、小間 柚羽、小美浪大雅、渋谷 莉瑚、島本 海央、関 一花、
相馬 月光、村田 奏音、渡邊 愛梨

5年（10名）

飯田 侑斗、長内 柚歩、坂口 澪、馬躰 希咲、平野ベニカ、丸井 朋弥、
村田 埜生、安田 莉々、吉澤 亜純、吉田 陽葵

6年（15名）

石川 帆乃、大野 莉奈、岡 洸樹、角谷 稀唯、小鹿 紅葉、島本 琉希、
砂山 大知、高田 友結、田中 紗彩、對馬 蓮、中塚 凌雅、中村 由芽、
藤村 結愛、村田 絢音、村田 稀生

★吉岡小学校★

1年（2名） 新山 圭瞬、本間ゆめの

2年（3名） 櫻庭 愛心、佐藤 舞果、三影 柊太

3年（1名） 本間 もも

4年（1名） 水澤 千愛

5年（5名） 小笠原 凜、櫻庭 大翔、佐藤琥太郎、新山 芽依、三影 蒼太

★福島中学校★

2年（6名）

岡 歩那美、角谷 琉唯、新山 健、松村 百花、山口 直子、吉村 太一

3年（4名）

角谷 友翼、島本 悠奈、福田 瑞姫、吉澤 舞雪



令和6年度福島町読書感想文・感想画コンクールに応募いただき、ありがとうございます。そして、受賞したみなさんはおめでとうございます。どの作品も素晴らしいものばかりで、みなさんが読書を楽しんでいる姿が目に浮かびました。

自分の想いを文章や絵で表現することは簡単なことではありません。この努力がみなさんにとってかけがえのないものとなることを願っています。

これからも様々な作品に触れ、お気に入りの本をたくさん見つけてくださいね。

令和6年度 読書感想文・感想画コンクール審査員一同



令和6年度 福島町読書感想文・感想画コンクール作品集

「やまゆり」

発行 令和7年1月
編集発行 福島町教育委員会